

Kapitel 1

新型コロナウイルスのパンデミックが始まったとき、ドイツでは食料品や医薬品、トイレットペーパーなどの生活必需品が足りなくなるのではないかという不安から、人々が買い占め、店頭から商品が消えた。この行動は **hamstern** (ハムスターのような備蓄行為) と名付けられている。ドイツではこの備蓄行動を後に皆で笑い合った。スイスでは第一次世界大戦末期にはこの **hamstern** という単語が史料に見られ、古くから国をあげて備蓄を推奨している。

Kapitel 2

余命宣告をされた人たちに、最後の望みを叶えてあげるプロジェクトがある。このプロジェクトはオランダ生まれのアイデアで、いまやドイツの全州が州独自のチームを持っている。オーストリアやスイスでも同様の取り組みがある。救急車を改造した特別仕様のワゴンカーで、医療設備も備わり、救急隊員も同乗し、患者に喜びを贈るため、様々なところに赴いている。

Kapitel 3

2011年の福島原子力発電所(原発)事故がきっかけの一つとなり、ドイツで原発からの完全脱却の議論が加速し、2022年12月31日までにドイツの17基の原子炉が送電線から切り離されなければならないとする法律が制定された。ロシアによるウクライナ侵略戦争の影響で天然ガスによる発電が難しくなったことは想定外であったが、ドイツは北部を中心とする地域にたくさんのウィンドファーム(集合型風力発電所)を持っている。ドイツには代替エネルギー源の選択肢は多くはないが、完全脱原発の実現に向けて国で努力をしている。※その後、2023年4月に最後の1基が送電網から切り離されている。

Kapitel 4

ドイツのエネルギー削減政策の一つとして、「9ユーロチケット」の取り組みがなされた。DB(ドイツ鉄道)のすべての種類の近距離交通(REなど)2等車、Sバーン、バス、地下鉄、路面電車であれば1ヶ月間ドイツ全域を9ユーロで移動できるというものである。鉄道に人々が殺到して、列車の遅延や列車の定員オーバーで乗れない人が続出するといった問題点もあったが、道路の渋滞が部分的に緩和されたり、多くの人が車に変わる選択肢としての公共近距離交通を試してみることができたりした良い面もあった。

Kapitel 5

鉄道会社 (DB Regio)、スーパーマーケット企業 (Rewe)、国際フェアトレードラベル機構の共同プロジェクトとして、列車で買い物ができる取り組みが 2021 年になされた。キーワードは「持続可能性」。鉄道を利用した人がそのまま買い物ができる利便性や効率の良さや地元のを販売できる地域への貢献が評価された。また、国際フェアトレードラベル機構が認定したフェアトレード商品を販売することによって、生産者が適正な賃金を受け取り、安全で衛生的な労働環境が守られるなど、地球規模の貢献もある。スーパーマーケット列車は主に職業訓練生たちによって運営された。訓練生たちは、大きな責任を任され、課題をクリアしながら職業訓練を積むことができた。

Kapitel 6

ロシアとウクライナの間紛争によって、ドイツには 2022 年 8 月末までに 100 万人ほど、オーストリアには約 8 万人、スイスには 6 万人ほどの人々がウクライナから到着した。避難民としての彼らには、宿泊場所や食事、医療の提供などさまざまな社会的援助給付が保証されている。役所は、住むところを探したり、仕事を斡旋したり、幼稚園・学校の手配をしたり、心の援助 (ケア) をしたりするのに手一杯である。無報酬で手伝ってくれる人が必要になり、多くの家族が支援に動いている。しかし、戦争が長引けば長引くほど、彼らは国に残っている家族が恋しく、また自立した生活に戻りたいと願うものである。

Kapitel 7

NATO 加盟が議論されているスウェーデンとフィンランドがこれまで中立を保ってきたのと同様に、オーストリアとスイスも軍事的中立国である。スイスは 1815 年のウィーン会議以降、中立国である。オーストリアは 1955 年に中立を宣言している。ただし、この 2 国は、中立の取り扱いが異なっている。オーストリアはすでに 1955 年の時点で国連 (国際連合) に、そして 1995 年には EU (欧州連合) に加盟している。スイスは 2002 年になってようやく国連に加盟した。このような連盟への加盟というのは中立を弱めてしまう。オーストリア国民の 4 分の 3 以上が NATO 加盟に反対している。

Kapitel 8

クリスマスは有名なクリスマスソングに「待つ楽しみ、最も美しい喜び」とある。クリスマスイブに居間に入ると、きらびやかなクリスマスツリーに感嘆の声が思わずあがる。しかし、クリスマスが終わった後のクリスマスツリーはいったいどうなってしまうのだろうか。いくつかの都市では、クリスマスツリーは特定の日回収してもらえる。また他の町では、回収場に自分で持ち込む。その他、動物園の動物の美味しい食べ物になる。木を暖炉のための薪として使う人も多い。古いクリスマスツリーを復活祭まで倉庫にしまっておき、他の木と共に復活祭の前夜に燃やす市町村もある。

Kapitel 9

スイスの人口は増えている。州によって差があり、高齢者の数が一番多いのはティチーノ州で、ヨーロッパ全域で見ても平均寿命が2番目に長い。合計特殊出生率はスイスが1.50、日本は1.30、ドイツ1.53、オーストリア1.47である。いまスイスにとっては、出生率が低下しないようにするための措置、また高齢化がもたらす経済面の影響が重要なテーマの一つである。

Kapitel 10

ドイツ語圏の国々では18歳で成年になるが、そもそも「成年になる」というのはどういうことなのか。法律上は18歳から大人であるが、ドイツとオーストリアでは21歳までは少年法が適用される（21歳を超えると、例外なく成人刑法が適用される）。18歳になってもまだ自分が大人になったと感じられない若い成人たちも増えている。平均寿命も延び、年老いても健康体であることを考えると、人生のステージが後ろ倒しになっている部分がある。若い人たちが子供の頃に描いていた（子供の目から見た）大人像に近づくのはかなり後になってからだということは想像に難くない。